

1997年7月15日発行第31巻第3号年4回刊

# Stereo Sound

特集1=両雄対決!タイプ別ライバルスピーカー徹底比較試聴

特集2=いまプリアンプが面白い/新世代プリメインアンプの実力

[BIG WAVE]プラチナム・エアーパルス3.1/DVDのサウンドクオリティ/マルチアンプ入門

季刊ステレオサウンド NO.123 1997 SUMMER

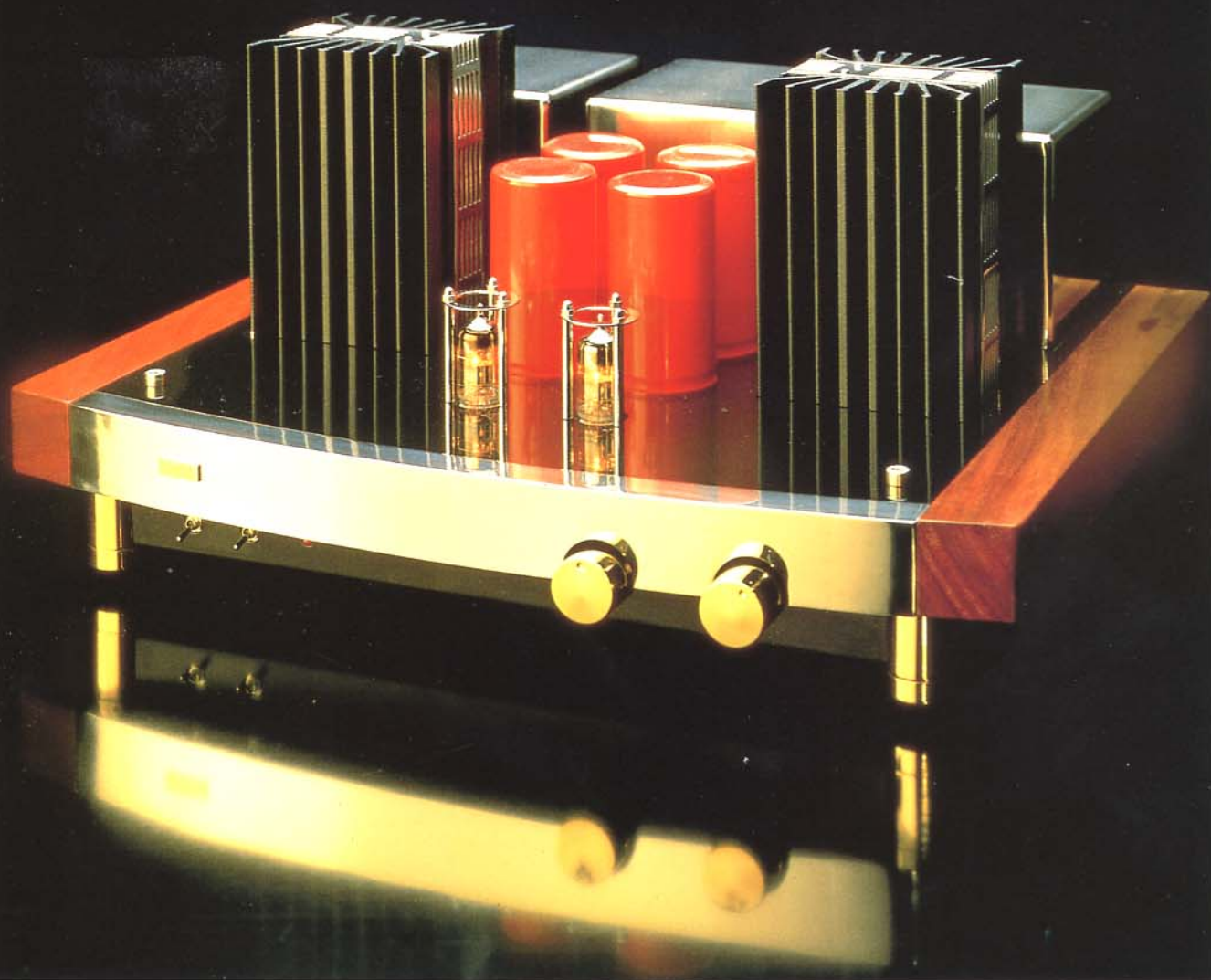
# Stereo Sound

特集=ライバルスピーカー徹底比較試聴/いまプリアンプが面白い

123

# PATHOS<sup>®</sup>

完璧なる均衡、イタリアン・デザインの申し子。



## Twin Towers Integrated Amplifier

¥680,000 (税別)

真空管と半導体を融合させるハイブリッド構成。そこから両者のメリットを完璧に引き出すことは1で言うほどやさしいことではありません。《Twin Towers》では歪みを減少させる革新的な《パソス》独自のINPOL回路、巧みなシャーシ・コンストラクション、厳選したハイグレードパーツの使いこなしなどが相俟って真空管、半導体それぞれの美点を高度に両立させています。最新半導体アンプの持つクリアさやスピード感、真空管の持つ温もりや充実感が、その官能的なボディの中に共存しているのです。また、その美しい姿態はイタリアン・デザインの極みともいうべきものです。クロームのハネルにゴールドのパーツ、ほのかな光りを発する真空管や鮮やかなレッドのコンデンサー、黒いヒートシンクなどが絶妙な均衡を保ちシャーシ上に配されています。従来のアンプのイメージを覆すかのような斬新かつ果敢なフォルムはインテグレートッド・アンプの新時代を思わせます。

《パソス Twin Towers》のオーナーは美しいフォルムとハイクオリティ・サウンドに酔いしれることになるでしょう。

**NASPEC**  
CORPORATION

株式会社 ナスベック

営業本部 〒161東京都新宿区上落合1-8-15-405 TEL 03-3368-1425 FAX 03-5331-7628

業務本部 〒500岐阜県岐阜市日野北4丁目16-11 TEL 058-240-4336 FAX 058-240-3458

●出力:30W+30W(8Ω) ●入力インピーダンス:100kΩ ●使用真空管:12AX7×2 ●寸法/重量:W478×H238×D445mm/37kg ●問合せ先:(株)ナスベック ☎03(3368)1425

# パトス Twin Towers

¥680,000



デリケートな部分の描写がリアル。フォーレは、甘美で柔らかな天上のハーモニー。消え入るようなppが美しい。

## プロフィール

'94年にイタリアで設立されたパトス・アコースティックス社の第1号機。入力段に双3極管の12AX7を用い、出力段にMOS-FETを使ったハイブリッド構成のインテグレートッドアンプ。大きな特徴は、歪みの低減に貢献するインボルと呼ぶ回路やアッテネーター一式の高品位ポリウム採用。さらに、モデル名の由来となった放熱効果に優れた2個の背の高いヒートシンク、信号系に使用の銅シールド純銀線も高音質を支えるアイテムである。



パトス・アコースティックス、なんとも洒落た社名ではないか。このイタリー新進気鋭のメーカーから日本に紹介される最初のアンプは何とハイブリッドタイプ。ピュアAクラス・ノンNFBで30Wの出力を得る。デザインは一見アマチュアの習作といった印象。ところが、である。ポリウムは本物のステツプアッテネーターだし配線はすべて銅シールドの純銀線、ツマミもムクの真鍮に24金の化粧が施されサイド・ウッドには無垢のイタリアン・ウォールナットが、そしてその重量たるや何と37kg、マッキントッシュMA6800より重いのだ。落ち着いてはいられない。もつとも最高の食材を使ったからといって最高の味になるとは限らないが……。

A TCで聴くドクター・ジョンは中音量までならと断わったうえで、明快で華やいた実に活気溢れる、という期待どおりの魅力的な鳴り方。それにしても、何か聴いているうちに元気が湧いてくるような闊達な音だった。

KEFなら結構大きな音が出せる。ジ

ヨー・ロヴァアーノ「ルビー・マイ・デイア」は情感溢れるテナー・サクスの、わずかにリードがかすめた感じやブレスの気配など、非常にデリケートな部分の描写がリアル。背後でこく控えめに聴こえるスネアのブラッシングの微細なニュアンスも、とても良く伝えていた。

フォーレの「レクイエム」は甘美で柔らかな天上のハーモニーだ。消え入るようなppの美しさ、余韻が天空高くスーッと溶けていく。パイプオルガンの低音も深々として豊か。

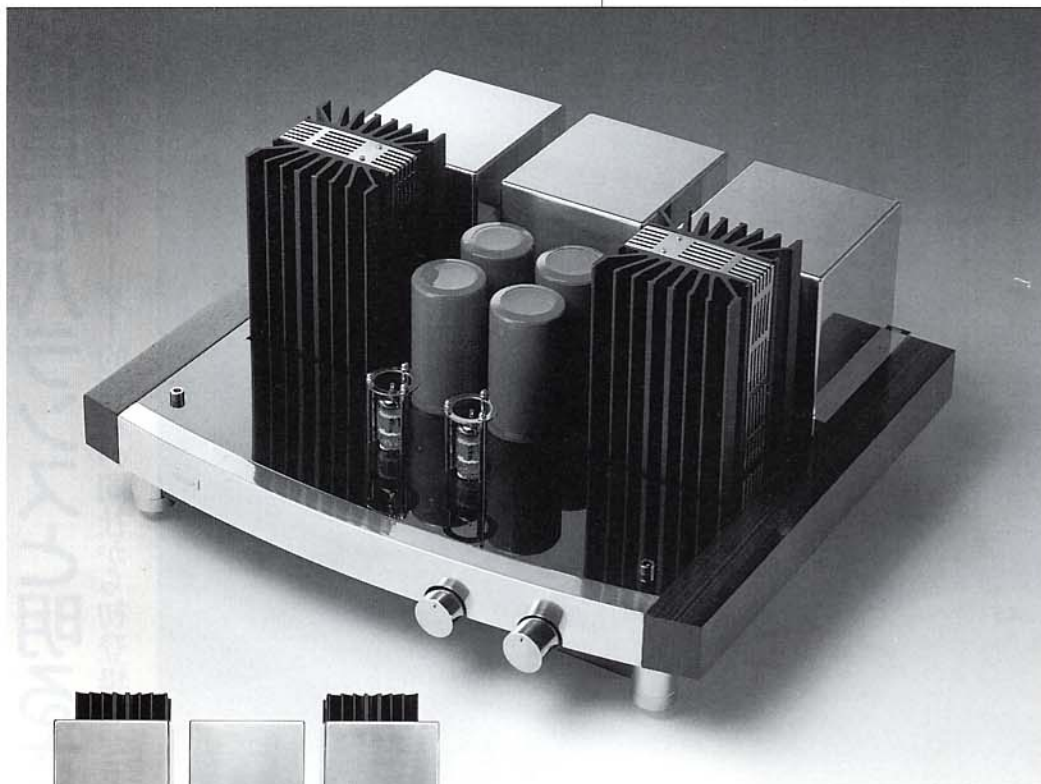
『裸のランチ』は空間の広がり、見通しがとてもよい。弦楽アンサンブルそしてオーネットのアルトの音色、いずれもたいへん艶やかでこれは本物以上の美しさか。

素晴らしい食材を見事に料理してみせたパトス。味はまあまあだが量(出力)だけは多いという、そんなレストラントはおよそ違う。ただ、現代の小型スピーカーは味も量もといった贅沢な要求をするものも多くなって少し困るが。

●出力：30W+30W(8Ω) ●入力インピーダンス：100kΩ ●使用真空管：12AX7×2 ●寸法／重量：W478×H238×D445mm/37kg ●問合せ先：株ナスベック ☎03(3368)1425

## パトス Twin Towers

¥680,000



リアビュー。中央にパワー段用電源トランス、左右にパワー段のINPOL回路用チョークコイルを配置。プリ部用トイダルトランスは筐体内に収納されている。入力はライン3系統。



型名の由来ともなっているタワー状の放熱器が装着された、同社独自の純A級動作のINPOLパワー段。カバーのスリットから3個のMOS-FETが見える。

最近のイタリアからは、個性ある製品が数々紹介されて楽しい。本機もその一つで、パトス・アコースティック社は94年、北イタリアのヴィツェンツァに誕生したばかりの新進。本機はその第一作だが、すでに20カ国以上に紹介され評判になっているとのこと。言われなくともイタリア製と分かるのは、本機の洒落たデザインである。ウッドのサイドラインをもつ薄型シャーシ上に並ぶ各パーツは、シンブルな左右対称でありながら、ちゃんと気取った印象で、一目惚れさせるところがある。掲載の写真では分からないだろうが、中央のコンデンサーは鮮やかなイタリアンレッドで、二つの真空管のほのかな灯に照らされるのである。

この二つの双3極管12AX7が示すように、プリ部は管球式。そしてパワー部は、詳細は不明だが本機が特徴とする、3個並列のMOS-FETとチョークコイルの組合せによる「INPOL回路」の純A級動作で、30W×2(8Ω)の出力を得ている。

このパワー段が左右のタワー状放熱器に納められているのが、本機のモデル名の由来だろう。このタワーには、冷却用の小型ファンも組み込まれているのだが、低速回転でノイズを気にさせるほどのことはない。

細かく見ればややデザイン先行で、あと一歩作り込みの完成度を、と感じるところも皆無ではないが、しかし、ポリウレタンには2dBステップで金属被膜抵抗を切り替える、本格的アッテネーターの採用／信号系の配線には銅シールド純銀線の採用など、新進らしい意気込みも感じとれる。

それだけに再生音は魅力的だ。広帯域を誇るより、帯域内の密度重視の印象で、肉感的なヴォーカルや、濃密で瑞々しい弦など印象が強い。パワーの点からも大迫力のタイプではないが、程よい輝きと帯域感が合うジャズもノリのいいものだった。

肉感的なヴォーカル、濃密で瑞々しい弦が好印象  
イタリア製ならではの洒落たデザインが魅力的なハイブリッド型プリメインアンプ  
柳沢功力